

地区の概要

付知町は、岐阜県の東南、中津川市の北部に位置し、平成17年2月に中津川市に編入合併した。住民同士が自ら行動を起こし、協働の精神で地域から元気を創り出すことが大切であるとの思いから、町内の各種団体に呼びかけ、平成19年3月に、「付知町まちづくり協議会」を立ち上げた。総務企画部会・生活福祉部会・農林商工部会・教育文化スポーツ部会に77団体が所属している。また、「広報委員会」を組織し、定期的に広報誌を発行することで、情報発信に努めている。平成22年4月に自ら策定した「付知地域まちづくりビジョン」の実現に向けて、行政と連携しながら協働による「まちづくり」を進めている。

主な特色

●中学生との意見交換会での若い世代による提案を形にしている。

中学3年生がグループに分かれ、まちづくりに関しているいろいろなテーマで話し合い、まちづくり協議会に企画・構想を提案する。生徒からの発想は柔軟かつ斬新で、自分達のまちをこうしていきたいという熱い思いが込められている。そんな思いを大切に、協議会がしっかりと受け止め、商店街など広く地域住民の協力を得て実現に向けて動いている。

例えば、付知の新ご当地グルメ「五平アイス」の誕生。中学生からの提案がきっかけで、地元の商店が試作を繰り返し、しょうゆだれに地元産の蜂蜜やゴマを加えたたれをかけたソフトクリーム「五平アイス」が完成し、つけち夢まつりで披露された。また、付知のイメージキャラクターを広く募集して人気投票なども行った。

●「付知GINZAマルシェ」の開催

以前は、賑わいを見せ「銀座通り」と言われた旧街道に、昔のような賑わいを取り戻そうと商店街の若手の方々が「付知GINZA会」を結成。平成26年4月から地元商店街の協力のもと、不定期に「付知GINZAマルシェ」を開催中。GINZA通りには、100円商店街、ハンドメイド雑貨、フリーマーケット等が数多く出店される。回を重ねるごとに、思い思いに「ぶらり☆GINZA歩き」を楽しもうと足を運んでくれる方が増えている。

●「付知まちづくり女性の会 こびちゃん」の活躍

生活福祉部会を中心とした、明るくパワフルな女性メンバーが集って結成。女性の目線で付知のまちを元気にするお手伝いをしようと、メンバー同士、活発に意見交換をしているいろいろな活動にチャレンジし、アイデアを実践している。「こびちゃん」とは方言で小さな女の子という意味。一昨年から「福島ひまわり里親プロジェクト」という、福島ひまわりを里親となって付知で育て、出来た種を福島へ送る活動に協賛し参加。また、懐かしい郷土料理の普及にも取り組んでおり、「付知峡おもてなし男子隊による郷土料理体験」という地元での婚活イベントを企画し、五平餅作り体験や川魚のバーベキュー、付知峡の散策等を通して、男女が親睦を深めて、付知に関心を持ってくれる人が増えればと願っている。



中学生との意見交換会



GINZAマルシェ

ポイント 若い世代を含めた住民全体で、地域の魅力を発見・開拓し、愛着の持てるまちづくりを推進

中学生との意見交換会での、地域の魅力発信の提案を基に、協議会メンバーが知恵を持ち寄り、形にしている。若い世代の声を尊重し形にすることで、故郷の良さを感じてもらっている。多くの活動団体がそれぞれの得意分野を活かして、楽しく交流しながら活動している大人の姿が、次世代の若者に対して地域への愛着を育てている。

今後の展望

地域づくり活動の成果はすぐに出るものではなく、継続していくことで、人と人とのつながりが生まれ育まれていく。長い目で、今の中学生を含めた若い世代が将来、やってよかったと思え、この付知に愛着を持ってまちづくりを担い、盛り上げていってくれるために、今後も活動を充実させていきたい。

ぎふ地域の絆づくり支援センターからのお知らせ

「岐阜県コミュニティ診断士を取得しませんか」

コミュニティ診断士は、地域の課題を洗い出し、岐阜県と岐阜経済大学の協働により、地域コミュニティの再生・活性化を担う専門家の養成を目指して、平成14年度に全国に先駆けて導入した民間専門資格(岐阜県知事と岐阜経済大学学長が共同認定)です。本資格を取得した方々は、福祉・防災・防犯・交通・住宅・環境保全など多方面にわたり、地域住民や自治会等の地縁組織と連携・協力しながら、地域の現状調査や課題解決、住民自治のまちづくりの推進等をサポートし、豊かな地域コミュニティづくりに貢献しています。資格取得後も研修会を開催するなど、診断士同士の交流・スキルアップを図っています。詳細については、岐阜県庁ホームページのトップページから検索してください。



診断士研修会の様子

岐阜県コミュニティ診断士

検索